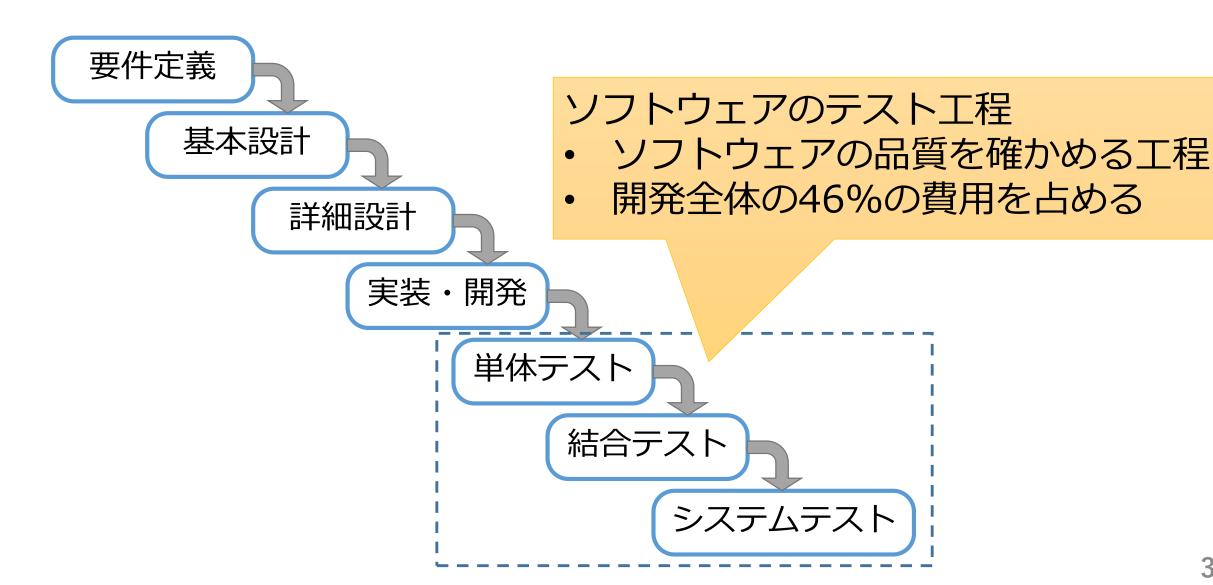
テストコード自動推薦 ツールに対する評価実験

NAIST SDLab 倉地亮介

本日の実験手順

- 1.ソフトウェアテストの説明 (5分)
- 2. テストコードの作成手順 (5分)
- 3. 事前練習 (10分)
- 4. 実践練習 (10分)
- 5.評価実験 (30分)
- 6.アンケート調査 (10分)

ソフトウェアテストとは?



テストコードとは?

- 作成したプログラムを実行して、結果を確認すること
 - ▶ 単体テストでは、テスト対象を呼び出すテストコードを 書いて実行

```
class Calculator{
  int multiply(int x,int y)
  {
    return x * y;
  }
}

@Test
void test(){
  Calculator calc = new Calculator();
  int result = calc.multiply(10,20);
  assertEquals(200,result);
}
```

テスト対象コード

テストコード

単体テストの作成手順

1. テスト項目(何を調べるか)を決める



- 2. テストコードを作成
- 3. テスト実施 (テストコード実行と結果の確認)

テストコードの書き方

テストコードの記述と実行

テストケースクラスの例

```
public class CalculatorTest { // クラスCalculatorに対するテスト
 // テストメソッド。何をテストして、何を期待するのかを理解できる名前をつける
                  // テストメソッドを表すアノテーション
   @Test
   public void testMultiply01() throws Exception {
      Calculator calc = new Calculator(); // テスト対象の準備
      int expected = 200; // 期待する戻り値
      int actual = calc.multiply(10, 20); // テスト対象実行
      assertEquals(expected, actual); // 実行結果の検証
   @Test
   public void testMultiply02() throws Exception {
      // 以降、テスト項目毎にテストメソッドを作成
```

テストケースクラスの書き方

● 1テスト項目を1つのメソッドとして記述

```
テスト対象メソッドを呼び出す
↓
出力が期待通りかどうか調べる
```

期待する結果かどうか調べるためのメソッド群 (assertXX)が用意されている

```
@Test // @Testはテストメソッドを表すアノテーション
public void testMultiply01() throws Exception {
   int actual = new Calculator().multiply(10, 20);
   assertEquals(200, actual);
}
```

主なアサーションメソッド

メソッド名	説明		
assertTrue(boolean)	引数がtrueかどうか検証する		
assertFalse(boolean)	引数がfalseかどうか検証する	本実験で主に用いる	
assertEquals(expected, actual)	2つの引数が同値であるかどうか検証する		
assertSame(Object1, Object2)	2つの引数が同じオブジェクトかどうか検証する		
assertNotSame(Object1, Object2)	2つの引数が異なるオブジェクトかどうか検証する		
assertNull(Object)	引数がnullかどうか検証する		
assertNotNull(Object)	引数がnullでないかどうか検証する		
fail()	テストを強制的に失敗させる		

テストカバレッジ

カバレッジの種類・測定

カバレッジ = テストの網羅率

- プログラム全体の内、テスト中に実行された割合
- 「テスト中に一度も実行されない行がある」
 - > その部分の品質は保証できない
 - ▶ (できる限り) カバレッジを100%に近づけるべき
- カバレッジ測定ツール
 - ▶ テスト実行時にカバレッジを測定する
 - ▶ 本実験では、EclEmmaというプラグインを使用

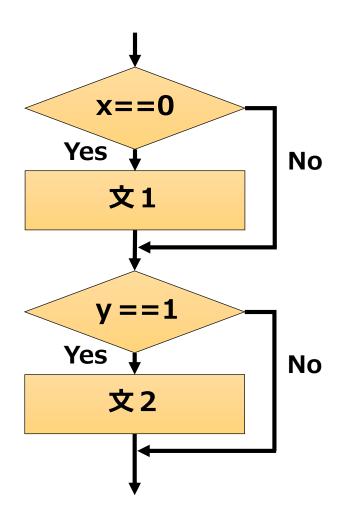
カバレッジの種類

● 命令網羅 CO

- > 全ての命令を最低一回実行
- フローチャートの全節点を通過
 ✓ (x=0, y=1)を入力

● 分岐網羅 C1

- ➤ 全ての条件分岐について、then、else いずれも最低一回以上実行



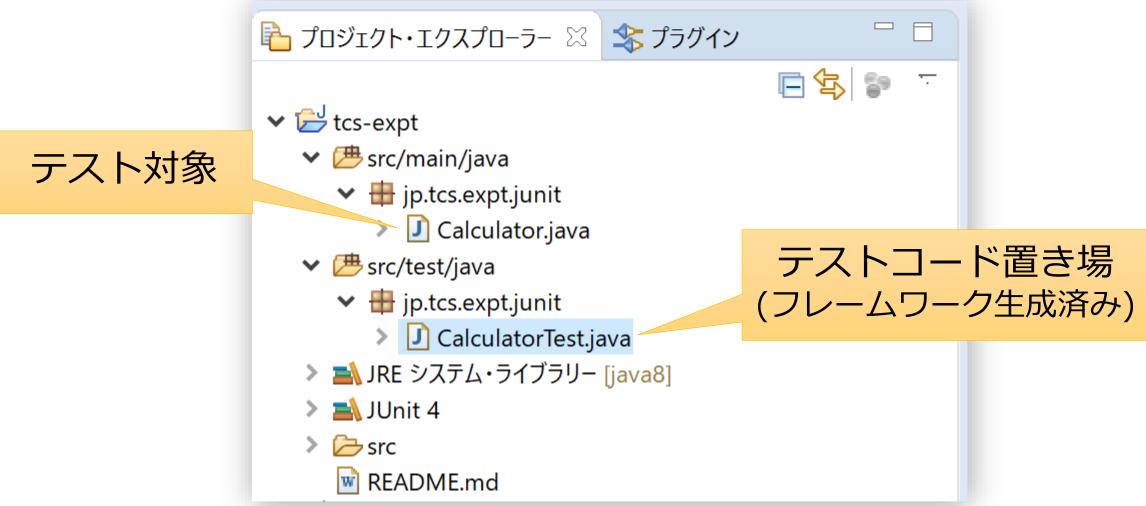
練習問題

テストコードの記述と実行 カバレッジの測定

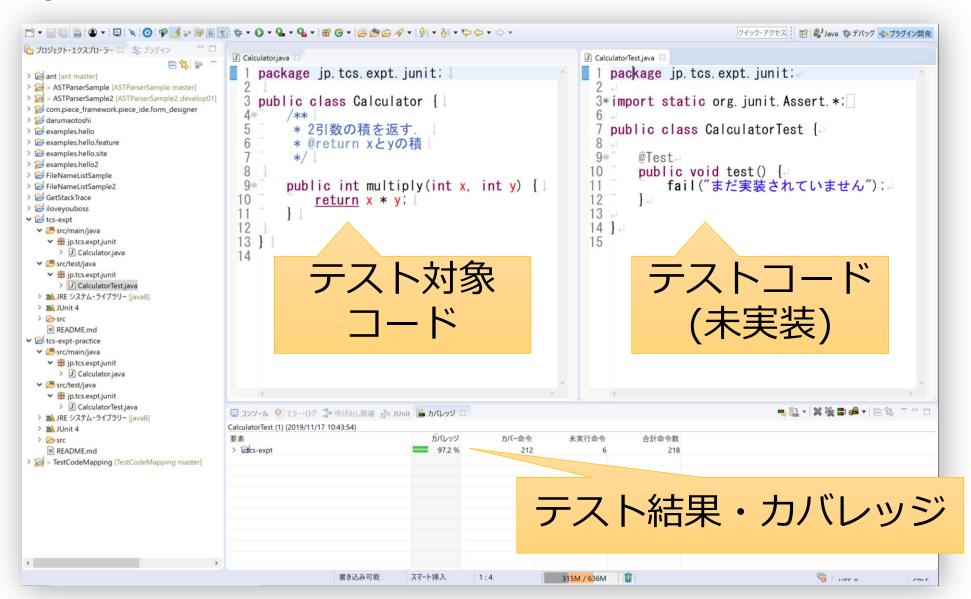
事前練習 (10分)

- 簡単なテストケースを作成
 - 開発環境: Eclipse oxygen
 - テスティングフレームワーク: JUnit4
 - テスト対象コード: Calculator.java
 - ➤ テスト対象コードはフォルダ src/main/java の下にある
 - ➤ テストコードはフォルダ src/test/java の下にある

練習プロジェクトの確認



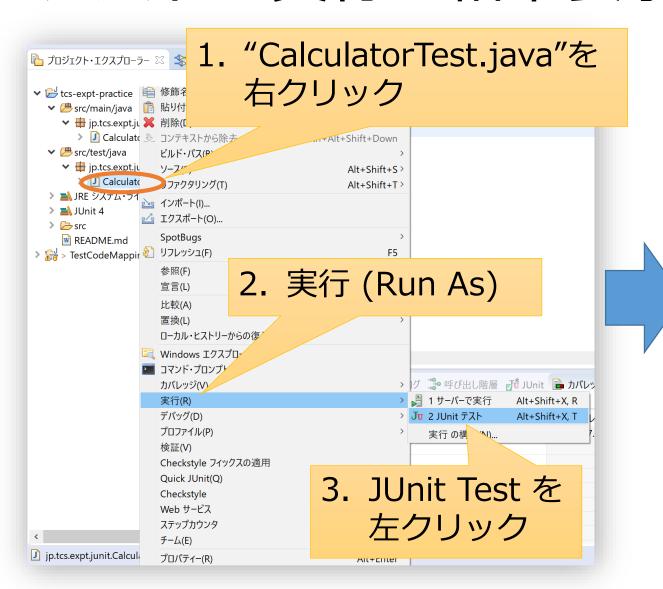
Eclipseの見方

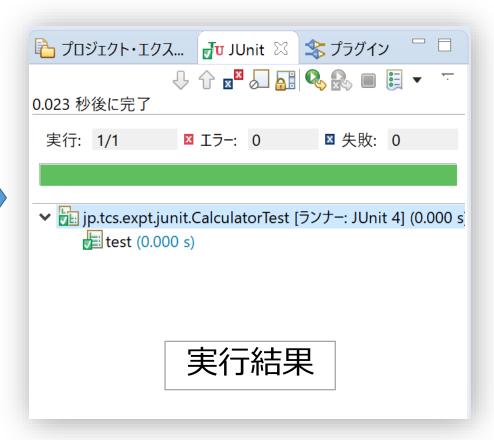


テストコードの記述

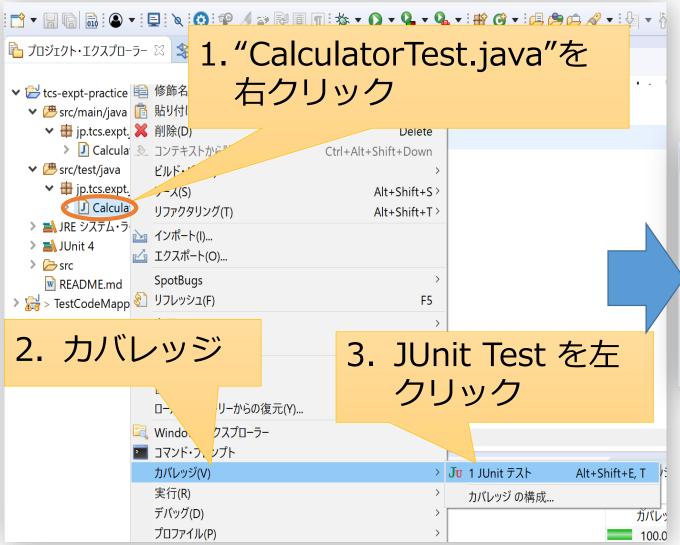
```
public class CalculatorTest {
  @Test
  public void test() {
     Calculator calc = new Calculator(); // テスト対象の準備
     int result1 = calc.multiply(10, 20);
     int result2 = calc.multiply(20, 30);
     assertEquals(200, result1);
     assertEquals(600, result2);
```

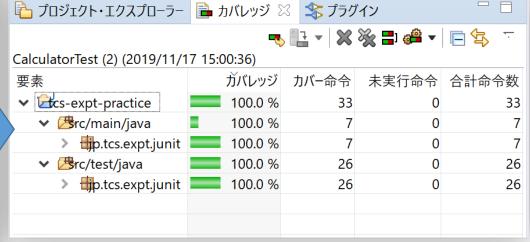
テストの実行・結果表示





カバレッジの測定





測定結果

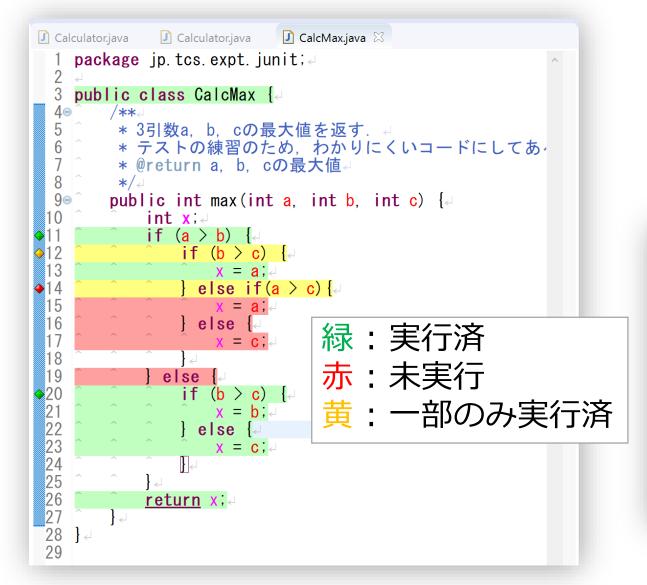
実践練習 (10分間)

- フォルダ **src/main/java** の下ある "CalcMax.java" に対する テストコードを作成してください
- "CalcMax.java"の仕様
 - 3つの引数(int 型) a, b, c を入力としての最大値を返す
 - テストコードの練習のため、少し分かりにくいコードにしてある

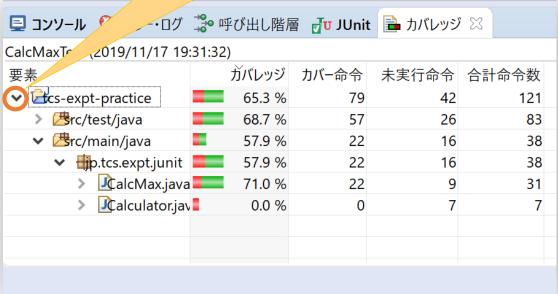
ロポイント

- ✓ 他の人から見ても読みやすいテストコードを書く
- ✓ 漏れのない必要十分なテストの量がどれだけか考える

実践練習:カバレッジの測定結果



展開してメソッド毎の測定結果を見られる

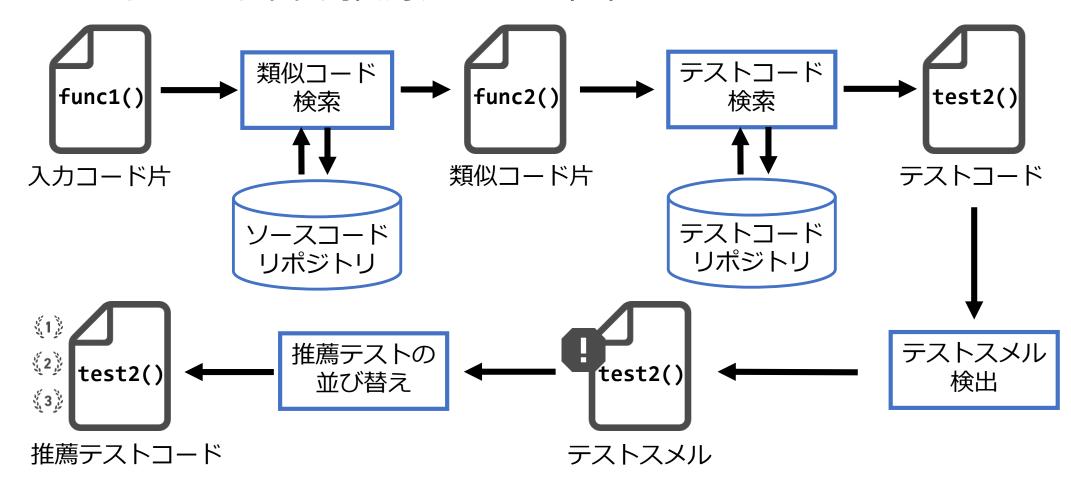


テストコード自動推薦ツール

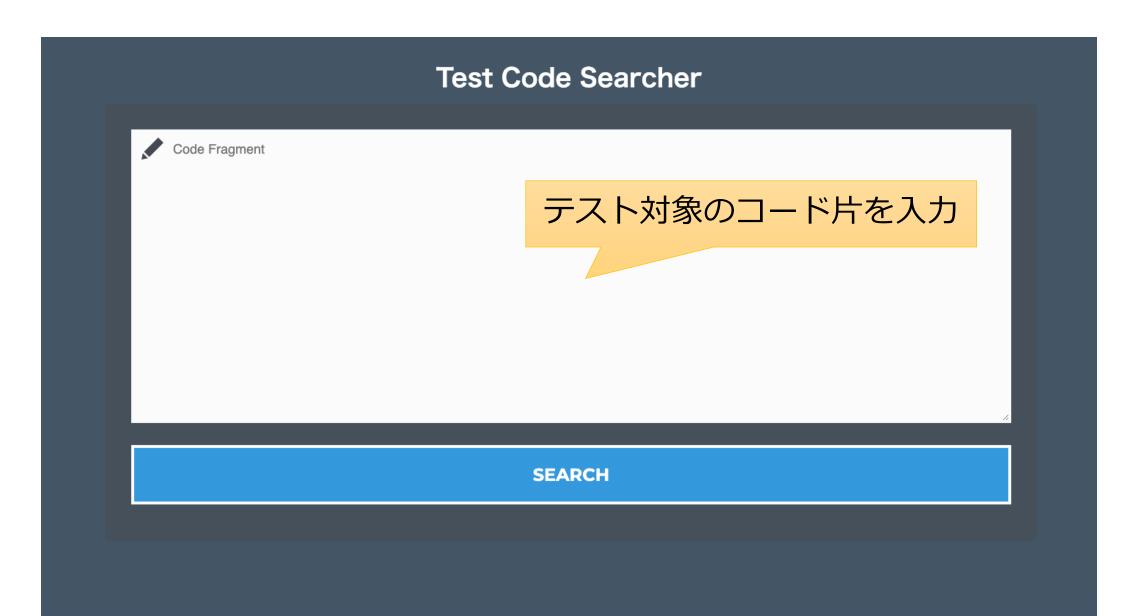
ツールの概要・使い方

テストコード推薦ツール

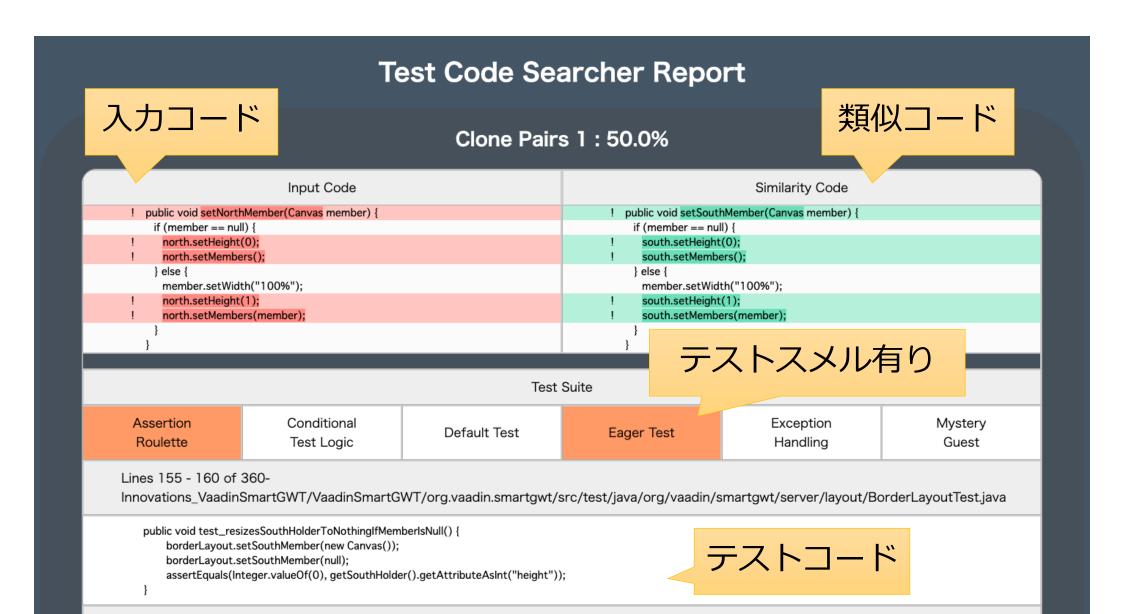
● テストコード自動推薦ツールの仕組み



テストコード推薦ツールの使い方1



テストコード推薦ツールの使い方2



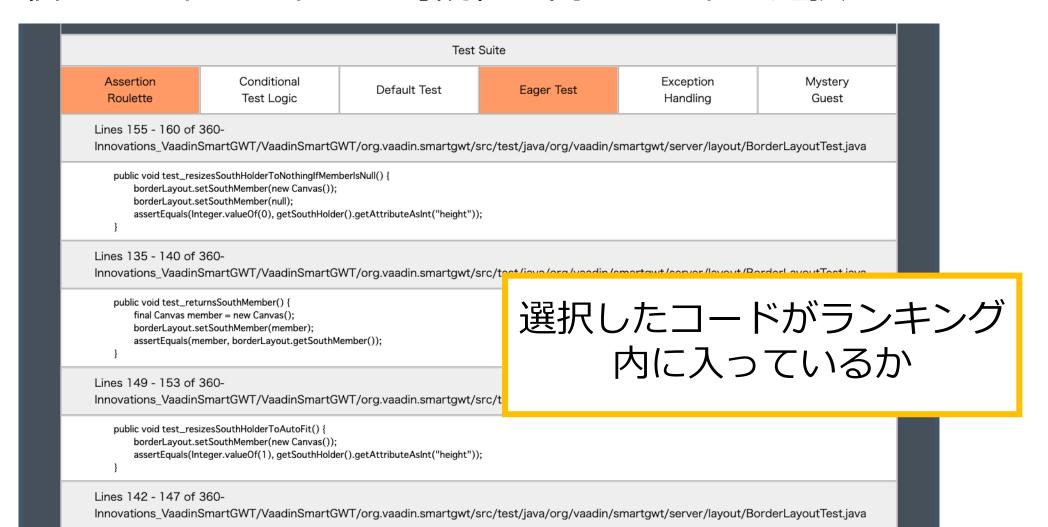
評価実験

評価実験の概要

- 1人で2つのコード片に対してテストコードを書いてもらいます
 - 1回目は、何も使わずテストコードを書く(15分)
 - 2回目は、テスト推薦ツールを使って書く(15分)
 - ※ 1回目に推薦ツールを使う場合もある
 - ■アンケート回答
- 調査すること
 - ▶ カバレッジ100%になるまでのテストコードの作成時間 (最大15分)
 - テストコードの品質(テストスメルの有無)

推薦ツールランキングの評価

● 10個のテストコードから可読性の高いコードを選択



評価実験に関するアンケート項目

	項目		5段階評価				
1	課題を明確に理解できた	1	2	3	4	5	
2	実験タスクを終えるのに十分な時間はありました	1	2	3	4	5	
3	テストコードの記述は簡単でした(ツール不使用)	1	2	3	4	5	
4	テストコードの記述は簡単でした(ツール使用)	1	2	3	4	5	
5	作成したコードの品質に自信がある(ツール不使用)	1	2	3	4	5	
6	作成したコードの品質に自信がある(ツール使用)	1	2	3	4	5	
7	推薦ツールの使用はテスト作成する際に参考になりました	1	2	3	4	5	

パーソナリティに関するアンケート項目

	項目	回答例
1	プログラミングの経験年数	3年
2	Java言語の経験	学部の授業で触った
3	テストコードの使用経験	あり or なし

評価実験に協力していただきどうもありがとうございました